

平成28年度

RyuMIC PROGRAM

RyuMIC研修医の声

ささき けんすけ
No.4 2年目 佐々木 謙輔
プログラム「ていだ」



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	脳神経外科			第一内科			麻酔科		ICU	第一内科	救急 (宮古病院)	
2年目	救急 (宮古)	第三内科			第二内科	地域医療	地域医療	精神科	放射線科	脳神経外科		

こんにちは。研修医2年目の佐々木謙輔です。私は初め、初期研修からバリバリ手技を覚えてどんどん腕を発揮したいと夢見ていました。勉強も大切だけどそれよりもとにかく手技、という考えで、そのためには大学病院ではなく、市中病院の方が適していると考えていました。私が普段からお世話になっている先生方に自分の考えを踏まえてマッチングの相談をしたところ、様々な観点から助言を頂きました。結果から言うと、その先生方の考えに共感して市中病院ではなく、大学病院での研修を選択しました。

その共感した考え方を含め、理由はいくつかあります。まず一つは、医師人生の最初の二年間はこれから先の医師としての生き方を大きく決定付ける非常に重要な期間であるということです。この期間に形作られなかった医学に対する姿勢や医師としての所作振る舞い、考え方などは、後期研修から身に付けようと思っても難しく、またそれまでに体に染み付いたものはなかなか取れないと教えて頂きました。次に市中病院と大学病院の扱う疾患の性質の違いです。市中病院ではCommon diseaseをとにかく捌き技術も同時に身に付けていく研修、大学病院では基礎疾患が入り組んだ複雑な症例を

扱いながら先端医療やアカデミーの要素も含めて医学というものをじっくりと学んでいく研修といった違いが大まかにあります。しかし、これからの医師人生の礎を築いていく上では、どちらの要素も必要であり、どちらか一方に偏る研修はあまり推奨されないのではないかと思われました。しかしその上で、これから先世界を相手に医療活動を行うにあたって、閉じた空間での研修ではなく、常に世界の医療に面している大学病院での研修でしっかり基礎を学ぶのがよいのではないかと助言を頂きました。

以上のことを吟味した結果、自分で研修内容を決められるRyuMIC研修プログラムで研修することを決めました。この研修プログラムでは、24カ月の研修期間の内、最高16カ月まで沖縄県内県外を合わせて様々な市中病院での研修を選択できます。それを最大限に利用して初期研修で体得しておくべき知識と技術をバランスよく最大限に学ぼうと思った次第です。医師としての基本や医学の考え方の基礎を主に大学病院で学び、救急などの症例をこなして体で覚える必要がある診療科は、その分野に強い市中病院で研修することにしました。

最後になりますが、他にも当RyuMIC研修プログラムの良いところはたくさんあります。しかし、私が考えるRyuMIC研修プログラムの最大の長所は、上記のように一般の研修プログラムではできないような研修の在り方を自分で考え、選択できるということです。これから初期研修病院を決めようとしている皆さん、このRyuMIC研修を通してぜひ自分の将来のために自分の手で初期研修プログラムを作り上げてみてはいかがでしょうか。

